

学校から半径約 2.5 km 圏内が校区。ほとんどの子が、上り道。高低差は、最大 60m、学校は、標高 140m の高さにある。その勾配の 9 割近くを最後の「小学校の鳥坂」で稼ぐ。鳥坂の勾配は、ショッピングセンターの立体駐車場の坂と同じ程度。立体駐車場の坂を 5 階まで歩いて上るぐらい▼東町方面の子が昇ってくる坂は、少し勾配が緩やかになるが、長さは鳥坂の 3 倍。どちらを通っても、高学年にもなると、サクサク上ってくるが、1 年生、低学年の子にとっては慣れるまできつい▼通学の途中に、足が進まなくて止まってしまう 1 年生の女の子がいる。最近は、暑さのこともあって、頻繁。他の班に比べて、10 分ほど遅れる日もある▼いつも高学年の女の子 2 人が根気よく寄り添っている。特に急がせるわけではない。怒っていることもない。1 年生の女の子のペースで無理をさせない▼この通学班が、少し遅れる程度で登校するようになった。並び方を変え、先頭の班長さんが 1 年生の女の子と手をつないで登校するようになった。班の中で考えたのだろう。手をつないでもらって、がんばって歩けるようになった▼どちらがよいかということではない、最善解を模索した結果である。「改革」をすると、その前が「ダメだった」と思いがちである。必ずしもそうではない▼「自分の力で願いをかなえる子」は思考錯誤できる子である。笑顔もつれてくる。